



玉森 大樹 議員

質問1 市営柳沢スキー場にリフト等を設置し、利用促進しては

教育長 近隣に民営のスキー場があり整備しても利用増は見込めず

問 近年、国内のウインタースポーツ人口は、様々な理由により最盛期の3分の1以下に減少したと言われています。当市には、ウインタースポーツ施設として柳沢スキー場があります。

このような状況下において、施設の使用状況並びに管理状況をお伺いします。
答(教育長) 市営柳沢スキー場は、平成4年12月に現在の形で開設されており、平成30年度からは指定管理者であります。特定非営利活動法人北斗スポーツクラブが管理運営を行っています。

使用状況については、ほぼ横ばいで推移しており、過去3年間では、平成30年度は1千53人、令和元年度は921人、令和2年度は976人が利用しています。
主な利用者については、一般利用では幼児または小学生とその保護者、団体利用では、小学校や保育園等で利用されているところと見られます。

また、管理状況については、開設期間中では、4名が交代で管理しており、除

雪作業、スキー場の管理、ロッジの清掃、管理等を行っています。

問 今年の2月に現地を確認した時には、利用者はおらず、そり滑りをした跡が多数残っていました。

スキー場として整備がされていないことや、コースの長さ、リフトがないなどの要素がスキーヤーやスノーボーダーに利用されない理由ではないのでしょうか。参考のために、近隣の自治体が運営するスキー場を見ますと、木古内町や知内町、厚沢部町、上ノ国町などはリフトや夜間照明などを整備し、無料で町民に開放している事例もあります。

柳沢スキー場も施設を整備し、利用者を増やす考えはないのでしょうか。
答(社会教育課長) 近隣の七飯町などに民営のスキー場があることから、市としては、今のところ整備の予定は考えていません。

問 近くに民営の立派なスキー場があるのだからそちらへ行って滑ればいいという考えではなく、せっかくある市営スキー場なので整備をして、一人でも多くの市民に利用してもらえようと考えていただきたいと思えます。

また、スキーは、高齢の方まで楽しめる生涯スポーツと言われています。冬のスポーツ施設として、現在の場所にこだわらず、緩やかで長く滑れるところがあれば他の場所で選定していただいても構いません。

ぜひ、検討していただきたい。

答(教育長) 今の柳沢スキー場を整備したところで現況を考えると、利用者が増えるとも思えません。

市民の皆さんの意見も聞き考えていかなければなりません。現段階ではさらなる整備など大変厳しい状況と考えます。



市営柳沢スキー場

質問2 道南いさりび鉄道への経営安定化事業補助金の推移は
市長 開業5年で経営計画に対する本市負担支出額は約18%増

問 道南いさりび鉄道は、赤字経営が見込まれる中、北海道及び沿線自治体からの出資金、初期投資補助金及び経営安定化事業補助金が投入され、開業より5年が経過しました。
現在も通勤・通学・通院など沿線地域

の住民には欠かせない生活路線となっています。

運行赤字に対する当市の負担割合は11.2%により、これまで支出した補助金の推移、当初見込みとの比較、今後の展望をお伺いします。

答(市長) 開業後10年間の収支予測を行い、道及び沿線市町が実質負担する収支不足額は約23億円、このうち、運行赤字は約15億7千390万円と試算しており、本市は11.2%の負担割合で財政支援を行うこととして合意しています。

本市がこれまでに支出した経営安定化事業補助金について、平成28年度は、850万4千965円、平成29年度は、1千667万1千949円、平成30年度は、1千968万3千991円、令和元年度は、1千769万565円、令和2年度は、2千917万6千553円となっています。

なお、道南いさりび鉄道の令和2年度下期の決算に対する本市の補助金は今年度における支出となりますが、697万2千730円の予定となっています。

また、経営計画に基づく収支不足額に本市の負担割合を乗じて算出した支出見込額は、平成28年度から令和2年度までの合計で8千377万6千円であり、決算に基づく実際の補助金の支出額の合計が9千870万753円となりますので、約18%の増となっています。